

組織目標評価報告書（令和5年度）

部局名：

グローバル人材育成院

部局長名：

鈴木 孝義

目 標		目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	関連する 中期計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
①質保証の伴ったSDGs国際教育プログラムを充実するため、対面実施が再開される米商務省重要言語奨学金(CLS)プログラムの準備を整え、着実に実施する。	(7-1)	①米商務省重要言語奨学金(CLS)プログラムを4年ぶりに対面で実施し、25名の学生が参加した。プログラムでは、日常的に国際共修を推進し、国際学生シェアハウスで日本人学生とCLS学生が共同生活を送りながら活発に交流を行った。学生からは、貴重な経験ができて満足しているとの意見が多数あり、学生からの評価も5段階中、4又は5がほとんどであった。引き続き、来年度の対面実施に向けて、American Councilsとの打合せなど諸準備を行っている。
②質保証の伴ったSDGs国際教育プログラムを開発するため、研究科との協力により、海外協定大学と連携しDXを活用して学ぶオンライン共同学習プログラム及びそのコンテンツの開発に着手する。	(7-1)	②国際デジタルサテライトキャンパス構想のプロジェクトに関して、環境生命科学研究科と協力し、ノンラム大学(ベトナム)等の協定校と協議を続けており、令和6年度に、岡山大学主催で「International Conference on Sustainable Agriculture and Environment 2024(仮)」を開催予定である。
③優秀な留学生の獲得のため、大学院予備教育特別コースにおいて、更なる広報とコースの安定的運用に取り組む。	(7-1)	③大学院予備教育特別コースについて、学内外への広報から入試、受入支援、修了に至るまで円滑に運用した。今年度は31名が入学し、大学院での研究で必要となる学術日本語能力の指導および大学院進学に向けた支援を行った。
④学生の海外派遣の支援とグローバル教育環境の充実を図るため、グローバル人材育成特別コース及び同学部・学科型プログラムについて、海外派遣と国際体験活動(DXも含む)を組み合わせた多様な派遣モデルを提供し、新たなグローバル教育を構築する。	(7-1)	④グローバル人材育成特別コースでは、グローバルリーダーシップの育成に重点を置いた新カリキュラムを開始し、SDGsなど国際社会が抱える問題に対する課題意識を高めて国際的な活動に積極的に取り組むことを目的とした新規科目の開講に加えて、JETROおよび岡山商工会議所との包括連携協定を活かして、岡山の企業の海外進出や吉備中央町におけるデジタル田園健康特区と地方創生をテーマとしたセミナーや講演を企画・開催した。国内外さまざまな国際的な活動への参加を推奨・指導してきた成果として、One Young Worldや日米学生会議、模擬国連など大規模な国際会議にコース生が相次いで出場した。
⑤学生の海外派遣、特に研究留学による大学院生の海外派遣数を伸ばすため、オンラインプログラムも活用しつつ、交換留学および派遣プログラムの充実を図るとともに、プログラムや制度等を戦略的に検討する。	(7-1)	⑤新型コロナウイルス感染症の5類分類に伴い、学生の留学(海外派遣)に関する制限がコロナ禍前に戻ったが、円安による留学費用の高騰等もあり、グローバル人材育成院が全学を対象に実施する交換留学(EPOK)による派遣者数は、前年度27名から28名とほぼ横ばいであった。派遣プログラム充実のため、EPOK協定校として2大学(イタリア・ペルー・ジャ外科大学、フィンランド・東フィンランド大学)を新規開拓した。語学研修はコロナ禍におけるオンラインプログラムの実施を終了、全て実渡航とし、前年度18名から160名と大幅に増加した。
②研究領域	関連する 中期計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
※研究領域での課題と本年度の目標を達成するための取組についてご記入ください。		
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
※社会貢献(診療を含む)領域での課題と本年度の目標を達成するための取組についてご記入ください。		
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
※管理運営領域での課題と本年度の目標を達成するための取組についてご記入ください。		
⑤センター・機構等業務	関連する 中期計画の番号	センター・機構等業務における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
①SDGs国際教育プログラムの充実と海外からの優秀な研究者及び大学院留学生の受入れ促進のため、UNCTAD—SDGs博士プログラムの短期・長期の2つのプログラムを研究科と連携しながら実施する。	(1-2) (7-1)	①UNCTAD短期プログラムである「途上国からの若手女性研究者のための共同研究・研修コース」では、第3期として南アフリカ共和国2名、フィリピン1名の計3名が、環境生命自然科学研究科、岡山大学病院において研究を行った。フィリピンからの研究者に関しては、同じ機関に所属する第2期参加者からの紹介が契機となり、本プログラムへの応募に到ったもので、継続性という点での好事例と捉えることができる。
②SDGsを先導する世界的次世代リーダー育成のため、OUGEIOとの連携の下、One Young Worldベルファスト大会への学生派遣を支援する。	(1-2)	長期プログラムである「途上国からの若手研究者のための博士課程学位プログラム」には、環境生命科学研究科の博士後期課程にナイジェリア及びフィリピンから1名ずつ、ヘルスシステム統合科学研究科の博士後期課程にマダガスカルから1名の計3名を受け入れている。また、本プログラムの全学展開に向けて、2024年10月入学者の募集では、新たに社会文化科学研究科及び医歯薬学総合研究科(私費枠のみ)の参加を調整し、私費枠については、一部、対象国を拡大して募集を行っている。
③優秀な留学生の獲得を目的とする国際同窓会の活用策として、会員及び在籍留学生を対象とする各種イベントや広報活動を通じて会員間のネットワークを強化し、留学希望者に対する本学のPRを積極的に展開する。	(7-1)	②OUGEIOとの連携により、One Young World北アイルランド・ベルファスト大会に本学学生2名が参加することができた。また、本学と岡山県教育委員会との協働による「おかやま夢育イニシアチブ」の一環として、岡山県から初めて、県内の高校生1名が同大会へ参加したが、学生の選出、実際の渡航・滞在期間中における全面的な協力を行うとともに、本学が重視している特色ある取組を高校生に発信する機会にもなった。
④海外の協定機関との学生教育及び共同研究に関するマルチラテラルな連携による国際的なプレゼンス向上のため、国立六大学国際連携機構とASEAN大学連合(AUN)および台北大学連盟(USTP)とのコンソーシアム間連携を強化し、学生および研究者交流を促進する。	(1-2) (7-1) (7-1)	③ 国際同窓会新規会員の獲得を目指した、学生ワークスタディスタッフの企画による、“ホビーハーモニー～シェアインスパイア～”イベント、茶道イベントを開催し、同窓生、現役留学生及び日本人学生との交流を深めた。また、海外出張に際して、現地の同窓会支部会員との交流を図るとともに、国内支部である中四国支部会員と懇談を行い、国際同窓会各支部との連携強化を図った。
⑤海外(特に東南アジア地域)からの優秀な留学生獲得のため、日本留学海外拠点連携推進事業と連携し、日本留学セミナー、アカデミックセミナーなどを実施する。		④国立六大学国際連携機構とアセアン大学連合(AUN)により、現地開催の派遣プログラム及びオンラインプログラムの2つの学生交流プログラムを実施し、学生交流の促進を図った。また、台北大学連盟(USTP)とのジョイントシンポジウムを開催し、研究者交流を促進するとともに、両機関の連携を強化した。
		⑤東南アジアのASEAN地域を対象に、オンライン・ハイブリッド・対面によるフェア・セミナーを推進した。フェアは、ミャンマー向けに1回主催した他、JICA主催のカンボジア向けフェア、ラオス向けフェアを各1回共催し、ASEANから計3千人以上が参加した。また、国立六大学や関係機関と連携し計84回オンラインセミナーを開催し、延べ5千人以上の参加者の留学意欲向上に繋がった。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。

(※該当がある場合のみ) 昨年度の指摘事項に対する取組状況

改善を要する点	
対応状況	